



国民の森林・国有林

広報

# 中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

http://rinya.maff.go.jp/chubu/



名古屋事務所：みどりのフェスティバル



北信署：森林環境教育用教材贈呈



岐阜署：国際森林年記念植樹祭



木曾署：森を歩く（森林散策）



## 各地で 国際森林年記念行事を開催

(P4~6に関連記事)

主な項目	○ 新任幹部の紹介 .....	P2
	○ 「国民の森林づくり」推進功労者へ長官感謝状を贈呈 .....	P3
	○ 森林・林業の再生に向けた人材育成 .....	P9
	○ 風景紀行 .....	P10

# 新任幹部挨拶

## ◆新計画部長



宿利 一弥

このたびの五月十六日付け人事異動により計画部長を拝命いたしました宿利(しゅくり)でございます。

珍しい名字ということで、出身地をよく尋ねられますが、その昔、祖父が正時代(大分)から上京したようであり、私自身は東京生まれ東京育ちです。

これまでの職務履歴としては、九州管内、旧帯広、秋田及び林野庁ほかで勤務してまいりましたが、中部森林管理局の勤務は初めてです。中部森林管理局管内には、日本三大美林の一つである木曽ヒノキをはじめカラマツなどの森林資源に恵まれており、日本の屋根といわれる日本アルプスを含め変化に富んだ条件のもと、古くから、ある意味で人々の暮らしと密接な関わりを保ちつつ、これらの保全と有効利用が行われてきたと考えます。歴史と伝統のある中部森林管理局に勤務できますことは、大変光栄なことであると同時に、その責任についても身の引き締まる思いを感じている次第です。

できる限り早く管内の状況把握に努め、業務を遂行してまいりたいと考えており、そのためには、職員の皆様にお尋ねし、また教えていただくことも多々あらうと思っておりますが、どうかよろしくお願いいたします。

さて、自己紹介が先になりましたが、ご承知のとおり、マグニチュード9.0という超巨大地震による東日本大震災の発生翌日(三月十二日)には長野県栄村を中心に最大震度6強を記録した長野県北部地震が発生しました。被災された皆様方に対しまして、心からお見舞いを申し上げます。未曾有の大地震・大津波による甚大な被害に、原発事故が重なり、国難といわれる状況であり、復旧・復興に向けた取組が急がれるところでありますが、森林・林業分野においては、森林内の路網整備等を通じた森林施業のまとまりの確保、森林から産出される木材・木質資源を余すところなく利活用を進めるなど、我が国の国家的な成長戦略の一つとして、十年後の木材自給率五〇%を目指す「森林・林業の再生」に向けた取組を、着実に加速化させていくことが求められていると考えます。国有林野事業におきましても、例えば低コスト・高効率作業システムの普及に向けた民有林関係者との連携等、これまで森林管理局署等での事業実施を通じて蓄積してきた森林の管理・整備に関する技術力、知識や経験を活用するといった組織的な貢献

ができるよう、局における担当課・担当職員の皆様とともに取組に努力していきたいと考えており、どうかよろしくお願いたします。

結びに、健康で明るく風通しの良い職場づくりに向け、率先して取組んでいきたいと考えており、職員の皆様方におかれましても、業務遂行に関わる作業の安全確保はもとより、心身とも無理のない平日頃からの健康管理にご留意いただきますようお願いして、ご挨拶といたします。

## ◆宿利部長の略歴

生年月日 昭和33年9月17日  
本 籍 東京都  
略 歴 東京大学農学部林学科卒業  
(S58・3)

昭58・4 林野庁指導部計画課に採用後、熊本営林局申間署・企画調整室、国土庁土地局土地利用調整課、林野庁企画課を経て

- 平4・4 帯広営林支局上士幌営林署長
- 〳6・4 林野庁業務第一課企画官
- 〳7・8 林野庁林政課総務班担当課長補佐
- 〳9・10 林野庁造林保全課保護企画班担当課長補佐
- 〳12・4 林野庁企画課年次報告班担当課長補佐
- 〳14・4 東北森林管理局計画第一部計画課長

- 平16・4 林野庁治山課課長補佐(総括)
- 〳18・8 文部科学省研究開発局海洋地球課深海地球探査企画官
- 〳20・8 独立行政法人森林総合研究所総合調整室長

## お世話になりました

### 前計画部長

川野 康朗

このたびの異動で関東森林管理局森林整備部に勤務することとなりました。私は林野庁職員としての初めての現場勤務が旧長野営林局であり、中部森林管理局でも昔お世話になった方々とも再び仕事をさせていただくことができ、この二年間、充実した日々を送ることができました。職員の皆様には心から感謝申し上げます。

南北アルプスや木曽ヒノキ林、カラマツ林など、我が国を代表する自然環境や観光地、林業地を有する中部局は、いろいろな意味から、全国の国有林の管理経営をリードする組織であり、そこで勤務させていただいたことは、私にとりましても貴重な経験となりました。

特に昨年は国連の生物多様性年ということで、名古屋で開催されたCOP10に合わせて各署等で様々な活動に取組んでいただきましたが、多様な自然環境を有

する中部局においては、それぞれの地域の人々の要望に耳を傾けながら、日々の森林管理を地道に継続していくこと自体が、国土全体の生物多様性を下支えることにつながっているとの思いを強くしたところであり、国際森林年を迎えた今年も、これらの基本スタンスは変わらないものと考えます。

また、今年には森林・林業の再生に向けたスタートの年であり、人材育成等民有林への支援施策も新たな段階に入りますが、私はあらためて目新しいことを行うのではなく、地域の要請に応じた森林づくりを着実に継続していくという国有林としての取組みを、民有林関係者にもきちんとした形で示せるようにすることが基本となるものであり、職員の皆様が、今後とも技術の維持向上に努めていただきながら、それぞれの業務にご尽力いただくことを期待する次第です。

今度参ります関東森林管理局は初めての勤務であり、所属も計画部から森林整備部に移りますが、北は新潟県から南は静岡県まで中部局管内と接しており、木材供給や事業体の育成、あるいは生物多様性保全施策など地域共通の課題も多く、技術面での交流を含めて連携を図っていきたくと考えますので、引き続きよろしく願います。

最後に、安全で健康な職場づくりにより、今後とも職員の皆様が国民のための森林づくりに向けて元気に活躍される

ことを祈念しまして、お別れのご挨拶とさせていただきます。

**「国民の森林づくり」  
推進功労者へ  
林野庁長官感謝状を贈呈**

〔総務課〕松本市安曇上高地の宿泊施設などをつくる「上高地を美しくする会」(会長 青柳薫)に、「国民の森林づくり」推進功労者として林野庁長官からの感謝状が贈呈され、平成二十三年五月二十五日、中部森林管理局局長室において城土局長から青柳会長に伝達されました。

同会は、昭和三十八年に、上高地及び周辺山岳地の優れた自然環境の保全を図



感謝状を手にする青柳会長を囲んで記念撮影

るとともに、適正な利用を促すことを目的として、ホテルや山小屋、交通事業者のほか関係行政機関も加わり設立されました。

夏から秋を中心として、年十回程度、ゴミの回収・分別及び観光客への啓発活動を毎年実施しており、同会の運動は、山岳地の美化運動の先駆けとして、全国的にも評価されています。

「国民の森林づくり」推進功労者への林野庁長官の感謝状贈呈については、森林づくりや森林環境保全、国産材利用推進に顕著な貢献のあった個人又は団体に對し感謝の意を表するため、平成二十年度から実施され、各森林管理局から推薦のあった取組から本年度は八団体に感謝状が贈呈されました。

**飯山市の小中学校へ  
森林環境教材に本を贈呈**

**「なべくら山の森太郎」**

〔北信署〕六月一日、飯山市の森林環境教育に活用していただくように、中部森林管理局で作成した「なべくら山の森太郎」(A5判カラー刷り47ページ)の贈呈式を開催しました。

当日は、なべくら高原「森の家」で、嵯峨北信署長から飯山市長に本二千五百冊の目録を、指導普及課長から地元戸狩小学校三年生全員に本を贈呈しました。



飯山市足立市長へ目録を贈呈

戸狩小学校全校生徒は、例年、なべくら山周辺で野外学習を行っており、三年生は本のモデルとなっている「森太郎」が住む「巨木の谷」を散策しています。当署長から「今年には国際森林年です。森林環境を学ぶと共に、森を多く歩き親しんでください。」と挨拶があり、飯山市長から、「市の木は森太郎と同じブナです。本を各学校に配布し、豊かな自然環境の郷土を学ばせていきたい。」と感謝の言葉をいただきました。また、三年生を代表して村松みうなさんからは、「本のプレゼントをありがとうございます。一生懸命学習します。」とお礼の挨拶がありました。

この本は、ブナの巨木「森じい」が少女「あずさちゃん」へ、木が育つ様子や、森の生態系等を語りかける内容と



挨拶する城土局長

このイベントは毎年行っているもので、一九八四年の長野県西部地震災害

「木曽署」五月二十一日(土)から五月二十二日(日)にかけて「2011 未来世紀へつなぐ緑のバトン」を未来世紀へつなぐ緑のバトン実行委員会(王滝村・木曽森林管理署ほか)の主催により開催しました。



なっており、読み進むうちに森林環境が理解できる絵本になっています。近々、市内の全小中学生と各地の図書館や公民館、信越下レイルを訪れる方が利用する民宿等に配布され、森林環境への理解を広げ、人を森に導いてくれることと思います。



森林の整備に汗を流す参加者

(王滝村)によって荒廃した箇所、緑を再生する運動として、王滝村で拾ったどんぐりの実を下流域の人達に育ててもらい、その苗木を濁沢の荒廃地に植樹する作業を実施したのが始まりとなっています。

今回は、城土局長の出席のもと、国際森林年をモチーフに牧尾ダム愛知用水通水五十周年記念イベントを兼ねて盛大に開催されました。

当日は御岳山がくつきりと遠望できる五月晴れに恵まれ、土石流によって荒廃した濁沢の周囲にナラやカエデ八百本が植樹され、また、治山工事によって見事に復旧した施工地の森林整備を、参加者は汗をぬぐいながら行いました。

今回の開催は愛知用水通水記念イベントを兼ねて行われたことから、愛知県から大勢の参加者があり、森林整備等を通

じた水源地に対しての感謝の気持ちが出べられ、水源地地域の保全に資する活動を深める「水の絆」宣言がされるなど有意義な開催となりました。

### 民有林への技術指導がスタート

「森林技術センター」森林技術センターでは、平成二十年度から実施している民有林への技術指導を五月からスタートしました。昨年度から岐阜県建設業協会と岐阜県森林組合連合会の共催による「森林整備技術者養成研修」の講師を派遣していますが、本年度は第一回目を五月九日(十一日(伐木造材編)、五月十二日(路網設計編))に美濃市で実施し、第二回目を五月十六日(五月十八日(伐木造



職員による技術指導の様子

材編)、五月二十日(路網設計編)に下呂市で実施しました。

受講生は、建設業等から今後林業に新規参入するため、安全基準や伐倒・目立て方法等の技術習得に真剣な眼差しで取り組んでいます。路網設計では、技術開発試験地の展示エリアの案内や岐阜県森林管理署中岡署長による座学など技術指導内容の充実・向上に努めています。

本研修の技術指導は最終年度となるため、取り組み等について「林野庁業務研究発表会」に成果報告することとしています。



### 新緑の定光寺で「みどりのフェスティバル」を開催

「みどりのフェスティバル」を開催

「名古屋事務所」名古屋事務所及び愛知森林管理事務所は、大型連休初日の四月二十九日に瀬戸国有林定光寺自然休養林において、国際森林年記念行事と銘打ち「みどりのフェスティバル」を開催しました。

オープニングでは、竹林名古屋事務所長と岩井愛知所長、山田瀬戸市まるっとミュージアム・観光協会事務局長が三組の一般市民の方々と、会場付近の法面にコナラの苗木を植樹しました。



親子連れなど多くの人が新緑を楽しむ



会場にコナラを植樹

本年度は新たに国土防災技術(株)と(独)森林総合研究所森林農地整備センター中部整備局にもご協力をいただき、それぞれ「ドパス」を使ったお絵かきや木のバッチづくりなどの体験コーナーを出展され、来場者で賑わっていました。また、今回は東日本大震災の被災者支援のため、募金箱を設置して義援金を募り、チェンソーパフォーマンズによる作品の売上金を加えるなど、多数の来場者からご協力をいただきました。



木のバッチ作りのコーナー也大盛況

会場の運営は、名古屋シティフォレスト倶楽部やフォレストサポーターズにもお手伝いいただきながら、丸太切り、ネイチャークラフト、マイ箸作り、火おこしなどの体験や紙芝居、クイズなどの学習も実施。モリゾー・キッコロも随所で登場して子供たちと握手したり写真を撮ったり、振興会・土木協会・造素協合同テントではお値打ちな木製品の販売や子供たちに大人気のかんな屑プール、お昼には恒例の豚汁が振る舞われ、長蛇の列ができていました。

この他、瀬戸市等定光寺自然休養林保護管理協議会による虫除けスプレー作り、日本ハム(株)によるクイズの他、環境省中部地方環境事務所からは庄内川下流に位置する藤前干潟との関



植樹する穴を懸命に掘る児童

「木曾署」六月三日(金)、小川入国有林において木曾森林管理署植樹祭が開催され、木曾郡内の町村長をはじめとする来賓の方々及び上松町立上松小学校五年生児童ら約百四十名と署職員約七十名が参加しました。植樹会場には、児童らが

### 木曾森林管理署植樹祭を開催 国際森林年記念・地域の方との森林散策もく

係などを説明しながら、折り紙作りや藤前干潟を守る会によるよしず作りの体験も行われていました。当日は、やや風が強かったものの好天に恵まれ、近隣の親子連れなど二千人弱が訪れ、のんびりと新緑の定光寺自然休養林でのひとときを楽しんでいました。



植樹を終えて(上松小学校5年生)

事前学習で木の絵や自然への思いをかいた記念碑が建立された後、参加者全員でヒノキ・サワラを中心とした五種の苗木の植栽に汗を流しました。前日までの雨の影響で足元がぬかるむ中、参加者からは将来の豊かな森林の姿を願い、「元気に育ってほしい」などの声が聞かれました。

また、今年二〇一一年は、国連が定めた国際森林年であり、その国内テーマは「森を歩こう」であることを踏まえ、午後からは赤沢自然休養林溪流コース(姫宮ルート)の森林散策を行いました。コースは全長三・七キロメートルと少し長かったものの、参加者は職員からの森林の働きなどについての説明を熱心に聞きながら、全員元気に散策終点の姫宮神社へと到着することができました。